

【R5年度】重点目標の取組・概要（学童保育の待機児童対策[放課後児童健全育成事業]）

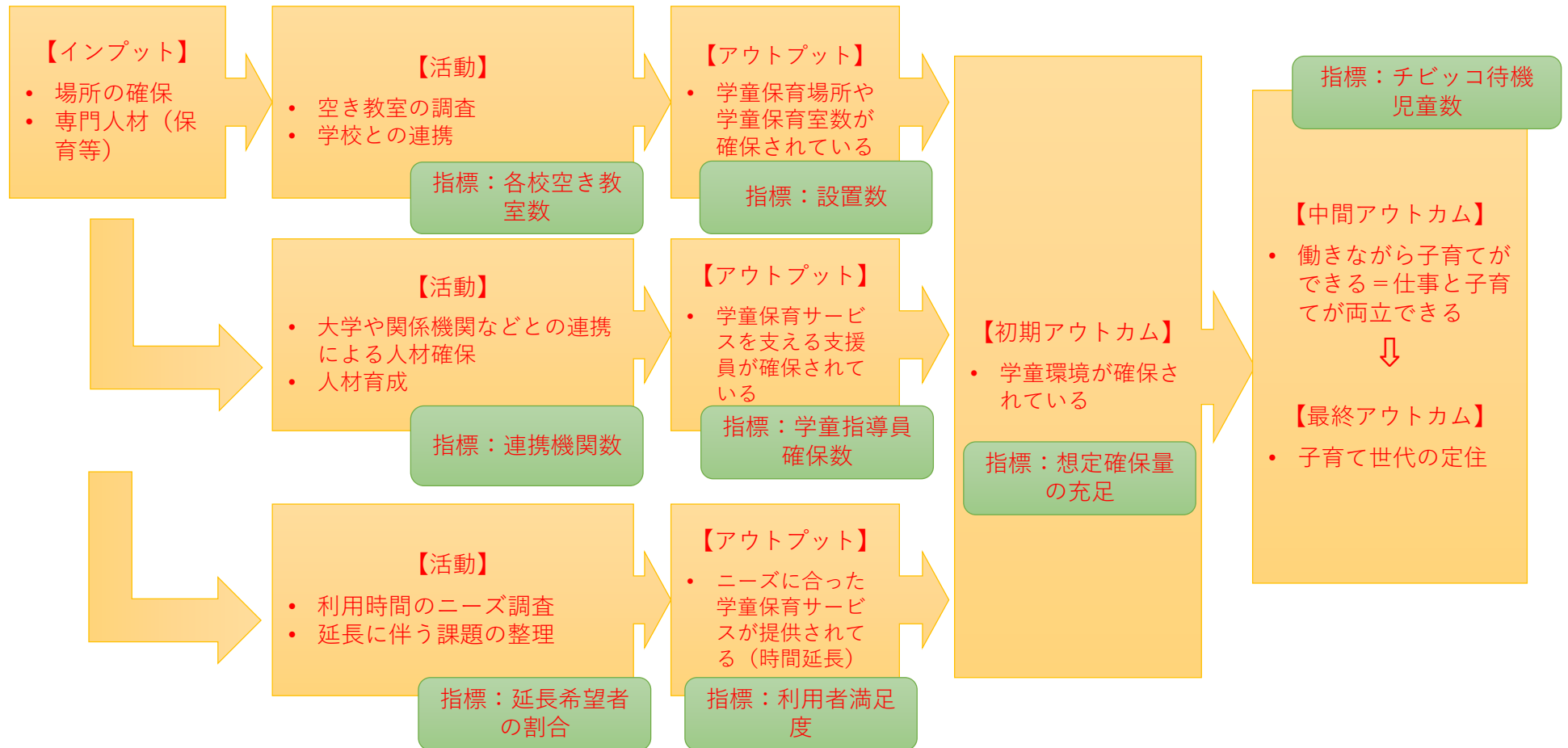
担当課（内線）	子ども家庭応援部子育て支援課（内線2776）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
・岸和田市内23校区の小学校にて実施しているチビッコホーム42か所（放課後児童クラブ）において、一部校区にて、待機児童が発生している。 ・待機児童解消のための空き教室の確保が課題である。（今後、新型コロナウイルス感染症が終息の方向に向かえば、再びチビッコホーム利用者が増加し、待機児童が発生する可能性がある。）	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・待機児童が発生している校区において、空き教室の確保を行い待機児童を解消する。 【成果に向けての各年度の進め方】 ・待機児童解消のために、小学校や教育委員会と連携を図りながら、空き教室の確保を行う。また、待機児童が発生している校区においては待機児童対策として、夏期臨時チビッコホームを開設する。 【R5年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・R5年度は、小学校23校で44箇所のチビッコホームを開設予定。また、夏期臨時チビッコホームを4箇所で開催予定。 ・R3年度に待機児童が発生したチビッコホーム（新条・城内・光明）については、R4年度に1ホームずつ増加し、待機児童の解消を図っている。 ・R4年度に待機児童が発生している常盤チビッコホームについては、R5年度に2ホーム増加予定とし、待機児童の解消を図っていく。また、大宮、東光チビッコホームについては、小学校の空き状況を確認し、チビッコホーム開設の可否について協議する。
R5年度の事業費（内訳）	
・チビッコホームに係る経費 323,854千円 （うち人件費 288,522千円） （うち事業費 35,332千円） ※特定財源：107,951千円（国交付金：子ども子育て支援交付金） 107,951千円（府交付金：子ども子育て支援交付金）	

R6年度以降の想定事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
・チビッコホームに係る経費 (R6)323,828千円 (R7)329,433千円 (R8)327,777千円 (R9)313,695千円	・各校区の待機児童数	・（R6）前年度を踏まえ改善 ・（R7）前年度を踏まえ改善 ・（R8）前年度を踏まえ改善 ・（R9）前年度を踏まえ改善

【R 5 年度】重点目標の取組・ロジックモデル（学童保育の待機児童対策[放課後児童健全育成事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【R 5 年度】重点目標の取組・評価シート①（学童保育の待機児童対策[放課後児童健全育成事業]）

担当課（内線）	子ども家庭応援部子育て支援課（内線2776）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 待機児童が発生している校区において、空き教室の確保を行い待機児童を解消する。

■ R 5 年度において実施・実現できたこと

- 待機児童が発生している4校区（大宮・旭・東光・城東）においては待機児童対策として、夏期臨時チビッコホームを開設することができた。

■ R 5 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- 待機児童解消のために、小学校や教育委員会と連携を図りながら、空き教室の確保を行う。また、待機児童が発生している校区においては待機児童対策として、夏期臨時チビッコホームを開設する。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 5 年度実績値
○	待機児童数	人	28	0	39
○	待機児童が発生している小学校区数	校区	3	0	4
○	学童指導員確保数	人	74	84	69
—	利用者満足度	—	—	—	—

【R5年度】重点目標の取組・評価シート②（学童保育の待機児童対策[放課後児童健全育成事業]）

■ R5年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 実施できたこと
待機児童が発生している4校区（大宮・旭・東光・城東）においては待機児童対策として、夏期臨時チビッコホームを開設することができた。
- ・ 実施できなかったこと
待機児童が発生している校区において、空き教室の確保を行い待機児童を解消することができなかった。



■ 課題分析

- ・ 待機児童解消のために、小学校や教育委員会と連携を図りながら、空き教室の確保を行うこととしているが、小学校側としては、支援教室の拡大や、35人学級の実現のために、教室の確保が必要であるため、チビッコホームの増設が難しい状況である。



■ ロジックモデルの振り返り

- ・ ロジックモデルにて利用者満足度の指標を掲げているが、実際に数値としてなかなか表わすことが難しいため、結果の検証をすることが困難であり、見直しが必要である。



■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 待機児童解消については、引き続き小学校や教育委員会と連携を図りながら、空き教室の確保を行うことが必要である。